

衛生士シンポジウム 3

マイクロスコープで見るインプラント周囲の炎症

片山 奈美

中田歯科クリニック（京都府）

近年、インプラント治療が広く普及し、日本におけるインプラント埋入本数も増加の一途をたどっております。それに伴いインプラントのメンテナンスの重要性がクローズアップされ、私たち歯科衛生士の新たな分野として日々試行錯誤しながら取り組んでおります。高齢者の人口が年々増加していく中、快適な口腔環境を求めるためにインプラント治療を行う方は今後益々増えることでしょう。当院でも年々インプラント埋入本数も増え、今や20歳以上のメンテナンス患者様の過半数がインプラントを埋入されております。しかし、残念なことにインプラント周囲組織の炎症の罹患率は増加傾向にあります。インプラントメンテナンスにおいては、可逆性の病変であるインプラント周囲粘膜炎の段階でトラブルを発見し、これが進行する前に治療を行う必要があります。メンテナンスの際に炎症の初期段階を的確にスクリーニングすることが私たち歯科衛生士の重要な役割なのです。マイクロスコープを用いることで、プラーク、出血、排膿の有無、残存セメントなど、肉眼では見ることが出来なかったポケット内まで指先の感覚だけでなく、視覚的に確認し的確に除去することで、より患者様に安全で確実な質の良い歯科医療、メンテナンスを提供することが可能になりました。そして、記録装置を用いることで、患者様自身に口腔内の状況を把握し、理解してもらい、モチベーションの向上、メンテナンスの継続に繋がっています。また、私たちも自分の処置を客観的に考察することで、技術向上にも役立ちます。インプラントメンテナンスにおいて、歯科衛生士が担う役割は大きく、天然歯のメンテナンスと同様に適切な口腔衛生は十分な患者教育によって実現が可能であり、衛生状態は効果的なリコールシステムによってモニターする必要があります。以上のことを通じて、インプラントメンテナンスでのマイクロスコープの有用性を皆様にお伝えできれば幸いです。

2015年 京都歯科医療技術専門学校卒業

2015年 医療法人社団洛歯会 中田歯科クリニック入社